

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 6 日 (2005.10.6)

【公開番号】特開 2003-143381 (P2003-143381A)
 【公開日】平成 15 年 5 月 16 日 (2003.5.16)
 【出願番号】特願 2002-231803 (P2002-231803)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 N 1/19
 G 0 6 T 1/00
 H 0 4 N 1/028

【F I】

H 0 4 N 1/04 1 0 3 A
 G 0 6 T 1/00 4 6 0 M
 H 0 4 N 1/028 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 5 月 24 日 (2005.5.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、
 前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は / 及び副走査方向のズレを補正する補正手段とを有し、
 前記補正手段は、第 1 のセンサチップ間と第 2 のセンサチップ間とで異なる処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、複数の補正データを有し、前記第 1 のセンサチップ間と前記第 2 のセンサチップ間とでは、異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて処理することを特徴とする画像処理装置。

【請求項 4】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、
 前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は / 及び副走査方向のズレを補正する補正手段とを有し、
 前記補正手段は、複数の補正データを有し、第 1 のセンサチップ間と第 2 のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて処理することを特徴とする画像処理装置。

【請求項 6】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、
 前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする補正手段とを有し、

前記補正手段は、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項７】

請求項６に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、複数の補正データを有し、前記第１のセンサチップ間と前記第２のセンサチップ間とでは、異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項８】

請求項６に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて前記領域を補間することを特徴とする画像処理装置。

【請求項９】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップと、
前記複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする補正手段とを有し、
前記補正手段は、複数の補正データを有し、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて処理を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項１０】

請求項９に記載の画像処理装置において、前記補正手段は、隣接する各々のセンサチップからの信号を用いて前記領域を補間することを特徴とする画像処理装置。

【請求項１１】

請求項１に記載の画像処理装置において、複数配列されたセンサチップから得られた画像を用いて、隣接するセンサチップ間の実装上のズレ量を検知する検知手段を有することを特徴とする画像処理装置。

【請求項１２】

請求項１に記載の画像処理装置において、前記複数センサチップの実装上のズレ量が所定値以上の場合、警告を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項１３】

請求項２、４、６、７、９のいずれかに記載の画像処理装置において、前記複数のデータは、各々が異なる行列のフィルタであることを特徴とする画像処理装置。

【請求項１４】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は／及び副走査方向のズレを補正する際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項１５】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は／及び副走査方向のズレを補正する際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項１６】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項１７】

それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴とする画像処理方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

また、この発明に係わる画像処理装置において、前記複数のデータは、各々が異なる行列のフィルタであることを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は／及び副走査方向のズレを補正する際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の主走査方向又は／及び副走査方向のズレを補正する際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正処理を行うことを特徴としている。

また、本発明に係わる画像処理方法は、それぞれが複数の画素を有する主走査方向に配列された複数のセンサチップから出力された信号に対して、隣接するセンサチップ間の領域の補正をする際に、第１のセンサチップ間と第２のセンサチップ間とで異なる補正データを用いて補正処理を行うことを特徴としている。